

# 飲み水は選ぶのに どうして空気は選ばないの？

空気を  
きれいにする  
技術!!

「人類を救いたい」。  
冗談ではなく、本気でそう考え、行動する男が三重にいる。  
そう聞いて取材に伺ったのが、  
丸武産業株式会社代表・内田武平氏その人だ。  
地方の小さな会社が、世界を舞台に活躍している。



内田武平さん

前は段ボール会社で、飛び込み専門の営業として働いていたという内田氏。その後独立し、主に食品パッケージを扱い始める。「独立したからには、より付加価値の高いパッケージを作ろうと思うた」。合成保存料を使用しない、天然成分での鮮度保持方法を模索した。そこで、考案したのがワサビの香りのする抗菌フィルムの開発だった。しかし、その技術はM社がすでに特許を取得し、商品化していた。ここで諦めないのが、氏の真骨頂。「だったら」と、単身M社に飛び込み営業を開始した。「俺に任せる。売れる商品を開発したるー」。結果的にその商品は、10億の利益を叩き出した。「ただし、ワサビフィルムには欠点があったんや。つは香りの持続性。もう一つは和食にしか合わないこと(笑)。これらの要素に左右されないものは何か？そこで目をつけたのが光触媒注しと

いつ訳や」。

目標を見つければ、一直線。今度は、産業技術総合研究所(国内最大の公的研究機関)に通う日々が始まった。商業高校中退の氏が、博士号を取得したインテリ達に混ざって光触媒の研究に没頭した。そこで大きな問題が立ちはだかる。「光触媒の最大の欠点は、光がないと効果が出ない点。有機物に直接塗布出来ない点。そして、塗布面に直接接触しなければならぬ点。パッケージに应用するには難しい。正直、もう止めようと思った」。しかし、最後の研究会で問題解決の糸口を掴んだ。試行錯誤につぐ試行錯誤。ようやく完成したのが、光触媒を超えた環境触媒、「アパテック®」(注2)だ。氏は自信を持ってこう言う。「博士たちは研究室で10万個のカビが100個に減ったなどと喜んでいますが、それでは話にならんわけです。もしカ

ビが一つでも生えてたら誰も買わへんでしょ、現実的には(笑)。当然、商品にカビが全く生えてない状態。これをどれだけ維持できるかが、勝負や。アパテック®は一般的な家庭環境下で、テストしてあります。そこで結果が出たら間違いないし、実際にカビは生えてへん。これなら、一目瞭然や。データとは、作るものなんです」。

なぜここまで、情熱を傾けることが出来るのか。彼を突き動かしたのは、ヒューマンな熱い想いとクールな経営者の頭脳だった。「パッケージを通じて、世の中に役に立ちたかった。合成保存料は人体に有害やろ？これが体内蓄積すれば、当然子供にも影響がでる。これを放置しておけば、いつか大変なことになる。自然の力で無害、しかも有効なパッケージは必ず出来るはず。人類を救わねばならん」。



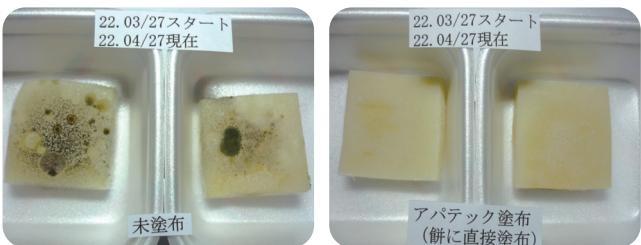
(注1)  
光が当たることで、有機物や細菌を分解する物質の総称。代表的な物質として二酸化チタンがある。

(注2)  
光触媒の働きを持つ二酸化チタンと抗菌力のある銀に、物質を吸着する作用があるアパタイト(リン酸カルシウム)を被覆したハイブリッド型触媒。これにより、浄化作用が働く範囲の飛躍的な拡大が可能とした。

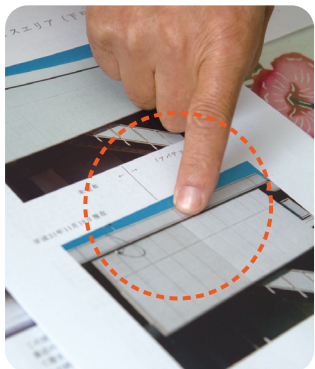
今

は水を買つことが当たり前の時代や。でもそれは、僕らの若い頃には考えられへん発想だった。じゃあ、水より大事なもので何だ？それは空気や。これからは、空気にお金を出す時代がやってくる。そう考えた時、僕は思ったね。この食品パッケージ、もっと広げたら「部屋」になるんじゃないかと」。

そんな氏の元に、あるホテルから相談が舞い込んだ。部屋に染み付いたタバコの臭いを、なんとか出来ないかという内容だ。依頼を受けた氏は、交渉した。「部屋二部屋でお試しするのは、全部屋施行させてほしい」。そうでなきゃ本当の効果は



「アパテック®」を塗布したモチと、そうでないモチ。その違いは一目瞭然。



「アパテック®」は研究室ではなく、より実用的な環境でテストするのだそう。



丸武産業株式会社の社用車。「アパテック®」塗布面だけ明らかに白い。

わからない。施工後、清掃員の一言がホテルのトップを動かした。「部屋に染み付いて、どうしても取れなかった「お香」の匂い。それが消えたんです。すごいものですね」。そこからは、日本全国施工巡業の幕開けだ。「ただし、僕は条件をつ出した。それは、同じメンバーで施工にあたること。なぜなら、塗った後は透明だから信頼のおける人間でないと任せられない。そのうえ半年先、二年先の汚れをシミュレーションして塗らないと本当の効果は出せないから。工場生産では駄目ってことです。従業員にいつも言うのは「作業でなく、気持ちで塗れ。愛する彼女の部屋だと思え」」。

「アパテック®」の防菌・防臭効果を買われ、病院やホテルはもちろん、大手からも引く手あまたの状況だ。そんな中、心ない仕事依頼もあるという氏が苦言を呈した。「もっとお施主さんに向いた仕事をすべき。何を一番に考えるのか、そこをちゃんと認識しないと。ハ」だけ作る時代はもう終わり。そうでないと建築業界はよくな

らない。

こんなエピソードがある。アトビーを患うお子様を持つ、一般住宅の壁に施工した時のことだ。医者にも治らないかもしれないと言われていたそのアトビーが、施工後三ヶ月で完治したそう。その家のご主人は、「これまで気付かなかった、朝のご飯の炊ける匂いで目が覚めるようになった」という。内田氏は言う。「空気は目に見えないもの。だからこそ知らない間にストレスとなって溜まってくるのかもしれない。空気はそれだけ重要」なのだ。

最後に氏はこう語ってくれた。「人間の値打ちというのは、自分が死んでも何かを残すこと。『あの人ののおかげ』と言ってもらえる人を一人でもいいから作る。そして、それに対する犠牲をどれだけ払えるか、それが人間の値打ちだと思っ。金じゃないんや」。

数日後には、中国で仕事だという。まさに環境触媒そのもののような人柄で、世界を変えていく。